



日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです！



民主 苫小牧号外
2026年
10.18
No.1161

アイヌ民族の存在を消す歴史

今月12日、党主催で『アイヌ民族の先住権を考えるつどい』を白老町で行いました。2019年に、『アイヌ施策推進法』が制定され、アイヌ民族は先住民族であることが初めて認められましたが、アイヌ民族の先住権は認められていません。ここに大きな課題があります。

アイヌの方々からのお話しでは、“言葉”という大切なアイヌ文化が奪われてしまったこと。研究のために多くのアイヌの遺骨が掘り起され採取されたが、わずか5%しか返還されていないこと。国では先住権の議論が進んでいないことなど、貴重なお話しが聞けました。

差別についても語られました。研究者は動物の研究をすることで動物の供養祭をするが、アイヌの遺骨を研究しても供養祭をしない。アイヌは動物以下だと。8歳の時

から入植者（和人）の家に雇われ、一日中こき使われ、食べ物は犬猫も食べないようなものを与えられたと。

また、アイヌの研究などで歴史に詳しい植木哲也さん（元苫小牧駒沢大学教授）のお話しもありました。驚かされたのは、北海道の歴史は、アイヌ民族の存在を消した歴史だということです。「北海道は開拓者の大地」と言われますが、アイヌ民族は存在しなかったようにして、入植者が未開だった北海道の大地を開拓したのが北海道の歴史だと、歪めた表現だといいます。アイヌの生活も文化も生業も奪った“同化政策”は、アイヌ民族の存在を消すことが狙いだったのでしょ

うか。
アイヌの方の発言の冒頭、「過去に目を背ける者には未来はない」と言っていました。過去の事実の積み重ねと同時に、語られている歴史が本当に正しいのか、しっかり学ぶことが1番大事なのだと感じます。「過去に目を背けない」ことは、全てのことに共通することだと思います。侵略戦争を美化する政府見解もそうです。

『つどい』には、紙智子前参議院議員と岩渕友参議院議員も参加してくれました。これまでアイヌ問題を国会で何度も取り上げてきた紙さんから、岩渕さんにバトンが引き継がれたように感じました。正しい歴史認識のもと、遺骨返還問題や失われたアイヌ文化、先住権問題などの課題を、アイヌの方々と私たちの共同の力で、前に進めていかなくてはと思いました。『アイヌのつどい』の継続も大切ですね。